

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
大阪工業技術 専門学校	昭和51年10月1日	校 長 福田益和	〒530-0043 大阪市北区天満1-8-24 (電話) 06-6352-0091			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人福田学園	昭和40年3月31日	理事長 福田益和	〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27 (電話) 06-6352-0093			
目 的	史的認識に立脚して現代の建築と、それを取り巻く環境について考察し、そのあるべき姿を模索し、その実現化を図るという建築学科としての伝統的目的の追求と共に、社会が本校学生に対して、建築にかかわる技術者として要求している社会的適応能力、技術的適応能力の養成を目的としている。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	専門課程	建築学科	2年(昼)	1,700単位時間 (又は単位)	平成23年文部科学省 告示第167号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,224単位時間 (又は単位)	170単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	816単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	148人	10人	32人	42人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 ※但し、年度により変更する場合がある。			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 優・良・可(100～60点)を合格とし、 不可(59点以下)を不合格とする。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：I部 8月10日～9月20日 II部 7月24日～8月31日 ■冬 季：I部 12月20日～1月7日 II部 12月23日～1月7日 ■学 年 末：共通 3月24日～4月5日 ※但し、年度により変更する場合がある。			卒業・進級条件	進級条件は必須科目10単位を含め、合計38単位以上履修合格すること。また、卒業条件は必須科目合計22単位を含め、総合計78単位以上履修合格すること。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任制により、定期的に学生本人のみならず保護者とも連絡をとり、状況確認をしながら適切な指導を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 現場見学会・作品展示会・講演会・レクリエーション等 ■サークル活動 (有・無) 野球部・エコー部・ロボット研究部等	

就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他 <b>■就職率<sup>※1</sup> 100.0%</b> <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup> 55.4%</b> <b>■その他（任意）</b> （平成27年度卒業者に関する平成28年5月時点の情報）	<b>主な資格・検定</b>	2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者、ビジネス能力検定、他
中途退学の現状	<b>■中途退学者 11名 ■中退率 7.5%</b> 平成27年04月01日在学者 146名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年03月31日在学者 135名（平成28年3月卒業生を含む） <b>■中途退学の主な理由</b> 経済的困難、進路変更（就職等）、家庭の事情等 <b>■中退防止のための取組</b> クラス担任制により、日々、出席管理をしており、学生本人のみならず保護者とも連携をとり、生活の管理をも含めた指導を行っている。		
ホームページ	URL:http://www.oct.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む）を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 09 月 09 日現在

名 前	所 属
児玉 哲也	一般社団法人 日本建築学会近畿支部 事務長
谷山 光	一般社団法人 歴史まちづくり研究会・うじ 理事
桐山 晋一	株式会社久米設計 大阪支社 主査
前野 敏昭	有限会社夢現設計室 代表取締役
伊東 和幸	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副校長
宗林 功	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長
吉田 裕彦	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長
竹中 智司	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 建築系科長
善才 雅夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進路支援室長

### (開催日時)

第1回 平成28年09月09日(金) 14:00~16:00

第2回 平成28年10月30日(日) 11:00~13:00(予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメント力、コミュニケーション力、プレゼン力、営業力、会計力等の力(本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする)の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於いては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計製図 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種(企画・営業・設計・施工等)で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。	中平勝建築研究所 Uo.A 一級建築事務所 木村松本建築設計事務所

設計製図Ⅱ	1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てるができるということをも前提条件にして設計演習を行う。コミュニティ施設、オフィスビル、図書館、美術館、複合施設を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解し、社会で通用する実践力を身に付ける。	緒方幸樹建築設計事務所 ヴァンテ・アン建築研究所
-------	---	-----------------------------

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

専門分野の知識・技術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させるための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指す。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 09 月 05 日現在

名 前	所 属
松山 義広	県立奈良朱雀高等学校 建築工学科長
藤山 等	株式会社 昭和工務店 総務部長
河野 正道	住友精密工業株式会社 総務人事部 アシスタントマネージャー

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.oct.ac.jp/other/evaluation-results.php>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: <http://www.oct.ac.jp/other/provision-information.php>

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築学科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			設計製図 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種（企画・営業・設計・施工等）が必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。	1通	136	4			○
○			建築製図 I	業界のどの分野においても求められる、基本設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、製図規則の理解からスタートし、平屋建て住宅から2階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い建築一般図面の作図までを行う。後期については、木造2階建て住宅及びRC造公共建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真剣にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力なども同時に養成する。	1通	136	4			○
○			CAD設計製図 I	近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてCADは一般的な道具となっているのが現状である。従って、CAD設計製図は建築技術者として身に付けておくべき必須技術の1つでもある。 本科目では基本練習により2次元CADの基本操作を習得した後に、さまざまな条件が課せられた建築物の計画・設計、さらにその建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでゆく。	1後	68	2			○
	○		設計特論 I a	CADの基礎から応用までを実習を通して学び、多くの課題をこなすことにより、CADの特性や図面のルールを身に付けていきます。同時に進心製図の授業とのコラボレーションも取り入れたいと思います。CADとはどんなものか？手描き図面（スケッチ）とどこが異なるのか等、その長所と短所を理解すると共に、その利用方法、操作方法等を学びます。	1後	68	4	○	△	
	○		設計特論 I b	コミュニティーセンターや公園内の休憩施設等、公共建築物の建築設計演習を通して実社会での意匠設計業務に必要な計画力の基礎、表現力、プレゼンテーション能力を養うことを目標とする。また、デザイン性だけを問うのではなく、関連法規や構造、設備まで幅広く実践的に学ぶ。	1後	68	4	○	△	
	○		施工特論 I a	木造建築物の生産技術に焦点を当て、製図や模型作製を通じて、木材の生産・流通から樹種の特性、軸組工法の仕組みや部材名称、木合いから墨付、刻み、上棟に到る施工手順を具体的に経験・理解する。	1後	68	4	○	△	
	○		施工特論 I b	この講義では、木造住宅の建築計画の仕方、建築構造の考え方、作図方法まで一連の流れを学ぶことにより、木造住宅の建築生産に不可欠な知識や技術を習得する。	1後	68	4	○	△	

		○	建築概論 (造形演習)	建築技術者として必要な「イメージしたものを描く力」すなわち、スケッチをする行為を習慣化、日常化させることを目的としている。建築物はあらゆる条件を1つにまとめることで成立する。よって、そのためにはスケッチ等を用いての試行錯誤が必要となる。	1前	34	2	△	○	
		○	構造力学演習	建築には芸術的な面と工学的な面があり、ものづくりや芸術的側面に偏って建築の道へ踏み込んだ人は多いことでしょう。しかし建築は人間の生活の場であり、同時に安全で快適であることが要求されます。そこで工学的に解決しなければならぬ問題が数多く存在し、中でも構造設計分野ではその基礎となる構造力学の知識が重要となります。この講義では、理数系を苦手とする人にも構造力学が理解できるよう、演習を交えながら初歩の初歩から解説します。	1前	34	2	△	○	
		○	計画演習 I	建築設計の初歩教育として、習得すべき計画の立ち上げ方、技法のバリエーション、空間の捉え方を短期の演習をベースにトレーニングします。スケール感、環境、ランドスケープ、空間スケール、図面の読み方など初歩の習得を目指します。	1前	34	2	△	○	
		○	計画演習 II	建築設計の初歩教育として、習得すべき計画の立ち上げ方、技法のバリエーション、空間の捉え方を短期の演習をベースにトレーニングします。スケール感、環境、ランドスケープ、空間スケール、図面の読み方など初歩の習得を目指します。	1後	34	2	△	○	
		○	建築計画 I	建築というのは人間のための空間です。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければなりません。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」「造形性」を含めた総合的造形物として創造しなければなりません。この授業では、建築計画の概略 [総論] から身近な“住宅”を例に基本的な考え方を身につけることを前提に、それぞれの学科の特色を活かしながら、建築を計画・設計する能力を養います。	1前	34	2	○		
		○	建築計画 II	この授業では、前半は建築計画 I で学んだ「総論」及び「住宅」における基本的な考え方を基に、実例を交えたより具体的な計画手法を、それぞれの学科の特色を活かしながら学び、考えます。後半は建築計画の [各論] として社会教育施設から医療・福祉施設、商業施設の計画から公共建築物について演習問題を通して学びます。	1後	34	2	○		
		○	建築史 I	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。	1前	34	2	○		
		○	建築史 II	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通じて行う。	1後	34	2	○		
		○	建築法規 I	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。	1前	34	2	○		
		○	建築法規 II	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。	1後	34	2	○		
		○	建築一般構造 I	この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法（在来工法）を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地球環境面から解体や建設廃棄物の問題についても考える。	1前	34	2	○		

○	建築一般構造Ⅱ	この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と補強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使い続けたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。	1後	34	2	○		
○	構造力学Ⅰ	建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学Ⅰではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかという基礎理論から、静定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1前	34	2	○		
○	構造力学Ⅱ	構造力学Ⅱでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Ⅰで学んだ内容を基に、静定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不静定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1後	34	2	○		
○	情報処理演習	建築技術者でも、ITリテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンに触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。	1前	34	2	△	○	
○	建築施工法Ⅰ	建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。この建築施工法Ⅰの講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法などを系統的に学習し、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学びます。また、2年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。	1後	34	2	○		
○	キャリアデザインⅠ	学んだ専門知識や技術を実務の場で発揮するための土台となる社会性の獲得や職業観の涵養を目的とする	1通	68	2	○		
○	設計製図Ⅱ	1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てるができるということを前提条件にして設計演習を行う。コミュニティ施設、オフィスビル、図書館、美術館、複合施設を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解し、社会で通用する実践力を身に付ける。	2通	136	4		○	
○	建築製図Ⅱ	建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各チームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、課せられた諸条件のもとで鉄筋コンクリート構造の4階建事務所ビルの計画・設計を行い、建築一般図面や各詳細図、構造図の作図までを学ぶ。後期については、鉄骨造4階建て建築物の計画・設計を行い、一般図から構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。	2通	136	4		○	
○	CAD設計製図Ⅱ	近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてCADは一般的な道具となっているのが現状である。従って、CAD設計製図は建築技術者として身に付けておくべき必須技術の一つでもある。本科目ではCAD設計製図Ⅰの内容を受けてCADを利用して事務所ビルの計画・設計から建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでゆく。さらに構造や構法の違いによるディテールや図面表現の違いやプレゼンテーションへの展開も学ぶ。	2前	68	2		○	

○		卒業制作	これまでの学修とキャリアデザインを融合し、単なる制作物としてではなく、人生の一里塚ともなる課題制作に取り組む	2 後	68	2				○
	○	意匠特論 I a	Ia(午前)・Ib(午後)の1日授業となります。a・bを関連付け、課題(住宅・公共建築)について、現地調査から、模型・プレゼンテーション・発表までの一連の流れを実際に対応させながらまとめて行きます。途中に関連作品の見学・レクチャーも取り入れ、リアリティーのある授業を行います。	2 前	68	4	○	△		
	○	意匠特論 I b	Ia(午前)・Ib(午後)の1日授業となります。a・bを関連付け、課題(住宅・公共建築)について、現地調査から、模型・プレゼンテーション・発表までの一連の流れを実際に対応させながらまとめて行きます。途中に関連作品の見学・レクチャーも取り入れ、リアリティーのある授業を行います。	2 前	68	4	○	△		
	○	意匠特論 I c	この科目では建築界の次世代を担う人材として、情報やデザインの収集だけでなくそれらを自ら発信できる能力の養成を目的とする。PC や CAD システムを利用した建築設計、デザイン手法・プレゼンテーションまでを、実際の作品製作を通じて理解し、学び実践する。操作方法やテクニック以上にPC を利用したデザインの可能性の発見を重視する。	2 前	68	4	○	△		
	○	意匠特論 II a	意匠特論Ia やIb など、今まで学んだ知識や技術を定着させながら、卒業制作に繋がります。ただ単に作品をつくるのが目的ではなく、学生個々が描いた「進路イメージ」や、その具体的な活動から浮かび上がる作品の制作を行います。	2 後	68	4	○	△		
	○	意匠特論 II b	意匠特論Ia やIb など、今まで学んだ知識や技術を定着させながら、卒業制作に繋がります。ただ単に作品をつくるのが目的ではなく、学生個々が描いた「進路イメージ」や、その具体的な活動から浮かび上がる作品の制作を行います。	2 後	68	4	○	△		
	○	構造特論 I a	前半では1年次に学んだ静定構造物の復習から行い、不静定構造物(梁、ラーメン)の弾性解析を習得する。後半では各種構造の計画から構造設計の基本となる考え方等について学ぶ。	2 前	68	4	○	△		
	○	構造特論 I b	各自でフレームだけを自作しフレーム強度と実際自分達で解析した計算結果との比較を行い、カと部材の使われ方、構造デザインについて学んでもらう。また、現代の建築から見るデザイン、耐震設計法を学ぶ。	2 前	68	4	○	△		
	○	構造特論 I c	鉄筋コンクリート構造についての、部材設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学び、簡単な建物の構造計算書の作成をおこなう。	2 前	68	4	○	△		
	○	構造特論 II a	構造特論Ia~Ic までの集大成として、各自でテーマ設定を行い、建物計画から構造計画、構造設計、構造計算、構造図を含むプレゼンテーション作成等、構造コースとしての研究をおこなう。	2 後	68	4	○	△		
	○	構造特論 II b	構造特論Ia~Ic までの集大成として、各自でテーマ設定を行い、建物計画から構造計画、構造設計、構造計算、構造図を含むプレゼンテーション作成等、構造コースとしての研究をおこなう。構造特論II aにに対し、その作業実施と個別指導、作品化を行っていく。	2 後	68	4	○	△		
	○	管理特論 I a	建築設計や現場管理で必要となる鉄筋コンクリート造及び鉄骨造の各種構造図の理解、作成、構造詳細図の作成等について学ぶ。	2 前	68	4	○	△		



○	管理特論 I b	この科目は、前半は、各種施工図を作成し、後半については、木造2階建住宅の積算を通じて設計図を読み取る能力を養うことを目的とします。	2 前	68	4	○	△	
○	管理特論 I c	この講義では、鉄筋コンクリート造建築物について建築計画の進め方、建築構造や建築法規、設備設計の考え方、実社会で行われている作図方法までの一連の流れを学ぶことにより、建築生産の場へ不可欠な知識技術を習得する。	2 前	68	4	○	△	
○	管理特論 II a	管理特論 Ia や Ib など、今まで学んだ知識や技術を定着させながら、卒業制作に繋がります。ただ単に作品をつくることが目的ではなく、学生個々が描いた「進路イメージ」や、その具体的な活動から浮かび上がる作品の制作を行います。	2 後	68	4	○	△	
○	管理特論 II b	管理特論 Ia や Ib など、今まで学んだ知識や技術を定着させながら、卒業制作に繋がります。ただ単に作品をつくることが目的ではなく、学生個々が描いた「進路イメージ」や、その具体的な活動から浮かび上がる作品の制作を行います。	2 後	68	4	○	△	
○	技術特論 I a	建築設計や現場管理で必要となる鉄筋コンクリート造及び鉄骨造の各種構造図の理解、作成、構造詳細図の作成等について学ぶ。	2 前	68	4	○	△	
○	技術特論 I b	工事現場で必要となる仮設計画、仮設工事実習、施工図の作成や、耐震診断・耐震判定、耐震補強の仕方、コンクリートブロック造組立実習等について学ぶ。	2 前	68	4	○	△	
○	技術特論 I c	この講義は、前半は測量機器を用いた測量、レベルの設定についての実習。後半は、外構計画及び造園実習を行います。ガーデンエクステリアや樹木等について勉強します。	2 前	68	4	○	△	
○	技術特論 II a	技術特論 Ia や Ib など、今まで学んだ知識や技術を定着させながら、卒業制作に繋がります。ただ単に作品をつくることが目的ではなく、学生個々が描いた「進路イメージ」や、その具体的な活動から浮かび上がる作品の制作を行います。	2 後	68	4	○	△	
○	技術特論 II b	技術特論 Ia や Ib など、今まで学んだ知識や技術を定着させながら、卒業制作に繋がります。ただ単に作品をつくることが目的ではなく、学生個々が描いた「進路イメージ」や、その具体的な活動から浮かび上がる作品の制作を行います。	2 後	68	4	○	△	
○	CAD設計 製図Ⅲ	建築業界にも情報化時代の波が押し寄せて来ている現代において、多種多様のコンピュータによる表現等について複雑化している。課題作成を通じてCAD設計製図で習得した事柄を使用してコンピュータの利用性、可能性、利便性について深く学ぶ。	2 後	68	2			○
○	建築計画Ⅲ	産業革命以降、建築や都市は環境を破壊しながら物質的な豊かさを追求してきました。これに対して、いつの時代にも自然保護や環境主義を唱える人々がいいたことも事実です。我々は、環境を破壊するばかりではなく、かといって自然保護を訴え続けるだけでもない、新しいデザインの方向性を模索する必要があります。この講義では、環境思想の変遷を捉えるとともに、建築デザインと環境デザインの関係性、都市における環境デザインの必要性、ランドスケープデザインの手法などについて学びます。また、環境デザインの歴史を参考にして、これからの日本の都市環境に求められるデザインの方向性について検討します。	2 後	34	2	○		

○		建築環境工学	この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や「地球の存続」という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我々が果たす役割は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考えている。	2 前	34	2	○			
○		建築設備	人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ。主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、快適な居住環境を創造するための諸設備（空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等）について学習する。また、建築設計と設備計画との関連についても言及する。	2 後	34	2	○			
○		建築材料学Ⅰ	この科目は現代建築における主要な建築材料であるコンクリートについて詳しく学び、後半は同じく主要材料の鋼材（鉄骨や鉄筋等）について学ぶ。また今日地球環境保護の観点から、適切な廃材処理の方法・施工時の環境への配慮等が必要とされており、それらについても学ぶ。	2 前	34	2	○			
○		建築材料学Ⅱ	建築材料Ⅰの続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼について学び次にアルミサッシ等の特徴を知る。次に建築の主要な材料である木材について、地球環境の上からも世界の木材事情等を学び木材の大切さを知る。次に石材、ガラス、プラスチック等の知識を習得を目指す。	2 後	34	2	○			
○		建築施工法Ⅱ	1年次で学んだ建築施工法Ⅰを基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすすみ新工法が数多く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。	2 前	34	2	○			
○		建築積算	建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。	2 後	34	2	○			
	○	キャリアデザインⅡ	学んだ専門知識や技術を実務の場で発揮するための土台となる社会性の獲得や職業観の涵養を目的とする	2 通	68	2	○			
合計					57 科目	2,210 単位時間 (102 単位)				